

学校自慢

361



教育に新聞を

高校生ものづくりコンテストの県大会を目指し、練習に励む生徒

(田辺市あけぼので)



初めて出場するという久保君は「ものづくりマイスターからの指導は参考になる。早く仕上げられるように練習している」、2回目の出場とう木本君は「1回目は失敗した。早い時間で正確な寸法に削れるようにしたい」と力を入れている。(初山仁美)

ものづくりは人づくり

校訓は「ものづくりは人づくり」。田辺市あけぼのの田辺工業高校は毎年、高校生もものづくりコンテスト(全国工業高校長協会主催)への挑戦

を続けている。今年も6月の県大会に向け、2人が旋盤作業部門での優勝を目指して腕を磨いている。

県大会の優勝者は近畿大会

へ、近畿大会の優勝者は全国大会に出場できる。今年の県大会は和歌山市の和歌山工業高校である。旋盤作業部門は制限時間内に課題通り、旋盤で鋼を加工する。寸法は100分の1ミリの精度で仕上げるという。

県大会に向けて練習に励んでいるのは機械科3年生の久保直也君(17)と榎本悌也君(17)。2人とも技能検定の機械加工普通旋盤作業3級に合格している。1月から練習を始め、厚生労働省から委託された「ものづくりマイスター」にも教わっている。正確な寸法を早く出せるように励み、表面をきれいに仕上げる方法なども学んでいる。

初めて出場するという久保君は「ものづくりマイスターからの指導は参考になる。早く仕上げられるように練習している」、2回目の出場とう木本君は「1回目は失敗した。早い時間で正確な寸法に削れるようにしたい」と力を入れている。(初山仁美)

